

問1 江戸時代から明治時代にかけての、滋賀県における輸送手段の変化について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。

(2021年 滋賀公立入試 類似)

1. 明治時代中期以降、東海道線などの鉄道網が整備されたことで、琵琶湖の水上輸送から鉄道へと輸送の主役が交代した
2. 明治時代初期に琵琶湖の全域を埋め立てる工事が行われたため、水上輸送から鉄道へと強制的に切り替えられた
3. 鉄道よりも北前船による日本海ルートへの需要が高まったため、明治時代を通じて琵琶湖の利用者が増加し続けた
4. 鉄道は旅客専用として整備されたため、物資の輸送については明治時代末期まで琵琶湖の船運が独占していた

問2 滋賀県に位置する日本最大の湖である琵琶湖について、その地理的特徴や周辺地域との関わりを説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。(2023年 群馬県公立入試 類似)

1. 淀川などを通じて、下流域にある京都府や大阪府などの生活用水や工業用水を供給している。
2. 日本で2番目に広い面積を持ち、周辺では大規模な干拓事業が行われ、現在は水田地帯となっている。
3. 火山活動によって形成されたカルデラ湖であり、その水は農業用水として利用できないほど酸性が強い。
4. 日本海とつながる汽水湖であり、シジミの漁獲量が日本一であることで知られている。

問3 近畿地方を北西(日本海側)から南東(太平洋側)へ横断するように、土地の起伏を垂直方向の断面で示した資料があります。その資料において、中央付近には標高1,000メートルから2,000メートルに達する鋭い山並みが描かれ、両端の沿岸部は標高がゼロに近い平坦な地形となっています。この中央部に位置する山地の名称と、その地形が地域に与える影響について述べた説明として、最も適切なものを選んでください。(2026年 山口公立入試 類似)

1. 紀伊山地が位置しており、南東から吹く湿った季節風を遮ること、その南斜面に非常に多い降水量をもたらしている。
2. 木曾山脈が位置しており、急峻な地形を利用した大規模な水力発電所が数多く建設され、京阪神への電力供給源となっている。
3. 中国山地が位置しており、なだらかな山容を利用して大規模な牧場が作られ、乳牛の飼育が盛んに行われている。
4. 飛騨山脈が位置しており、標高が高く冬の積雪が非常に多いため、一年を通じて雪を利用した観光業が発展している。

問4 近畿地方から四国地方への交通網において、兵庫県の神戸市、淡路島、そして徳島県の鳴門市を結ぶルート(神戸・鳴門ルート)が果たしている役割として最も適切なものを選択してください。(2026年 静岡公立入試 類似)

1. 明石海峡大橋と大鳴門橋を介して、本州と四国を陸路で直結し、人や物の移動を効率化させている。
2. 本州の岡山県と四国の香川県を鉄道と道路の両方で繋ぎ、瀬戸内海の物流の中心を担っている。
3. 広島県から愛媛県にかけて点在する多くの島々を橋で結び、サイクリングロードなどの観光資源を提供している。
4. 淡路島を通過して大阪府と和歌山県を最短距離で結ぶことで、紀伊半島の孤立化を防いでいる。

問5 奈良県の産業や文化遺産に関する統計的な特徴とその理由について述べた文として、正しいものはどれか。(2020年 岡山公立入試 類似)

1. 海に面していない内陸県であるため漁業生産額が極めて少なく、かつて都が置かれた歴史から国宝の指定件数が多い。
2. 広大な湖を利用した淡水漁業が盛んであるが、歴史的な中心地から離れていたため国宝の指定件数は少ない。
3. 複雑な海岸線を持つリアス海岸により漁業が盛んであり、古くからの寺社が多いため国宝の指定件数も多い。
4. 県の大部分が山地で占められるため農業は振るわないが、大陸との貿易拠点であったため工芸品の国宝が集中している。

問6 滋賀県の人口動態に関する将来推計において、1975年から2045年にかけての統計を確認すると、2010年頃をピークに総人口が減少に転じることが予測されています。また、2045年には65歳以上の老年人口が0歳から14歳の年少人口の約2.7倍に達するという推計が出ています。このように、子供の数が減り、高齢者の割合が非常に高まる社会現象を何といいますか。(2022年 滋賀公立入試 類似)

1. 少子高齢化
2. 過疎化
3. 人口爆発
4. ドーナツ化現象

問7 琵琶湖における赤潮の発生日数は、1970年代後半のピーク時と比較して、2000年代以降は数日程度にまで大幅に減少しました。この変化をもたらした主な社会的・制度的要因として最も適切なものはどれですか。(2015年 長野県公立入試 類似)

1. 滋賀県内における下水道普及率の上昇や、環境配慮型農業の推進
2. 琵琶湖の面積を拡大するための干拓事業の停止と自然保護区の指定
3. 高度経済成長期に建設された大規模ダムによる、湖水の流入量制限
4. 琵琶湖周辺における製造業の工場の全面撤退と、観光地化への転換

## 答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**  
**明治時代中期以降、東海道線などの鉄道網が整備されたことで、琵琶湖の水上輸送から鉄道へと輸送の主役が交代した**
- 滋賀県では古くから琵琶湖を利用した物資輸送が盛んでしたが、明治時代に入り、近代化政策の一環として東海道線などの鉄道が整備されると、交通体系が大きく変化しました。特に明治時代中期以降は、大津や長浜といった拠点が鉄道で結ばれたことにより、長年続いていた水上輸送から、より効率的な鉄道輸送へと物流の構造が転換しました。
- 問2** **答え 1**  
**淀川などを通じて、下流域にある京都府や大阪府などの生活用水や工業用水を供給している。**
- 琵琶湖は「近畿の水がめ」と呼ばれ、滋賀県内だけでなく、京都府、大阪府、兵庫県といった下流域の都市圏にとって不可欠な水源となっています。琵琶湖から流れ出る水は瀬田川、宇治川と名を変え、最終的に淀川となって大阪湾に注ぎます。なお、面積2位の湖は茨城県の霞ヶ浦、汽水湖でシジミが有名なのは島根県の宍道湖です。
- 問3** **答え 1**  
**紀伊山地が位置しており、南東から吹く湿った季節風を遮ることで、その南斜面に非常に多い降水量をもたらしている。**
- 近畿地方の中央から南部にかけて広がる紀伊山地は、標高1,000メートルから2,000メートル級の険しい山々が連なる日本有数の山岳地帯です。この山地は、夏に太平洋から吹き込む湿った南東の季節風を正面から受けるため、上昇気流が発生し、三重県の尾鷲などに代表される世界的な多雨地域を形成する要因となっています。一方、北西側の日本海沿岸部や両端の平坦な低地とは対照的な険しい起伏を示しており、地形断面図における最大の特徴となります。
- 問4** **答え 1**  
**明石海峡大橋と大鳴門橋を介して、本州と四国を陸路で直結し、人や物の移動を効率化させている。**
- 兵庫県を通る「神戸・鳴門ルート」は、本州と淡路島を結ぶ明石海峡大橋と、淡路島と徳島県を結ぶ大鳴門橋によって構成されています。このルートの完成により、従来は船舶に頼っていた近畿圏と四国東部の交通が高速道路で直結されました。これにより、農産物の輸送時間の短縮や観光客の増加など、地域経済の活性化に大きく貢献しています。他の選択肢は、瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）や西瀬戸自動車道（しまなみ海道）の説明です。
- 問5** **答え 1**  
**海に面していない内陸県であるため漁業生産額が極めて少なく、かつて都が置かれた歴史から国宝の指定件数が多い。**
- 奈良県は周囲を他の府県に囲まれた内陸県であり、物理的に海を持たないため漁業生産額が極めて低くなります。また、日本の政治・文化の中心地として平城京が栄えた歴史があるため、今日においても寺院や仏像などの国宝が非常に多く保存されています。滋賀県は日本最大の湖である琵琶湖での漁業がありますが、内陸県である点は共通します。しかし、国宝の集中度や漁業額の極端な少なさを考慮すると、奈良県の特徴が顕著に現れます。
- 問6** **答え 1**  
**少子高齢化**
- 日本全体と同様に滋賀県でも出生率の低下と平均寿命の伸びが進行しています。統計上、総人口が減少局面に入らないうち、働く世代である生産年齢人口や年少人口が減り続ける一方、老年人口が増加し続けることで、社会保障制度の維持などが課題となるこの現象は、現代日本の地理・公民分野における最も重要な社会課題の一つです。
- 問7** **答え 1**  
**滋賀県内における下水道普及率の上昇や、環境配慮型農業の推進**
- 赤潮の原因となる富栄養化を防ぐため、滋賀県では下水道の整備が急速に進められました。これにより、家庭からの汚水が直接湖に流れ込むことが抑制されました。また、化学肥料や農薬の使用を抑える環境配慮型農業（環境こだわり農業）の普及も、湖水の水質改善に大きく貢献しています。統計資料でも、下水道普及率の上昇と反比例するように赤潮の発生日数が減少していることが示されています。